

3. 検査専門クリニックのMRI検査ワークフロー

村上 峰人 医療法人友誼会内田クリニック

当院が大阪府の北摂に設立された1995(平成7)年当時は、MRI装置の普及率も低く、MRI検査は主に病院で実施されていた。しかし、実地医家の日常診療においても画像診断への注目度は高く、それに呼応する形で「実地医家に身近な」検査専門クリニックをめざしたのが当院の始まりである。それから数十年を経て、大学病院とのオンライン化は促進され、当院を取り巻く通信環境は様変わりしたが、予約や結果報告の作業は設立当初から大きく変化していない。作業のオンライン化が進まない理由として、依頼施設ごとの診察環境の違いが根底にあり、現状でも電話、FAX、郵便などが主な通信手段となる。本稿では、書類を扱うことが多くなる検査専門クリニックでの工夫や苦勞について、フローチャートを交えて紹介する。

事前チェックと当日チェック

MRI従事者であれば、安全確認作業で検査可否の判断を求められることはよくある。検査当日に検査不可の判断をした場合、トラブルに発展することも多々あり、事前に判明していればもっと早く対処できたと感じることも少なくない。これを踏まえて、トラブルが少ない来院前の「事前チェック」と、来院後の「当日チェック」に分け、病院と検査専門クリニックの安全確認作業の違いについて考える(図1)。

まず、病院ではMRIに特化した予約システムが機能する。具体的には、ポップアップ機能による警告や禁忌事項の有無をチェックしないと予約確定できな

いようなシステムが構築されている。このように、リスクに応じての予約制限が可能であり、診療放射線技師が行う事前チェックは検査前日チェックだけでも問題ない。当日チェックはすでに診察は終えているので、来院時チェックや直前問診だけとなる。

次に、当院の事前チェックであるが、情報不足を補う意味での予約時チェックと、書類を扱うことになる依頼書チェックとなる。検査前日チェック、来院時チェック、直前問診は病院と同じであるが、検査する側のインフォームドコンセントの必要性もあり、当院では当日診察も行っている。

予約時チェック

予約時チェックは最初に医事課が対

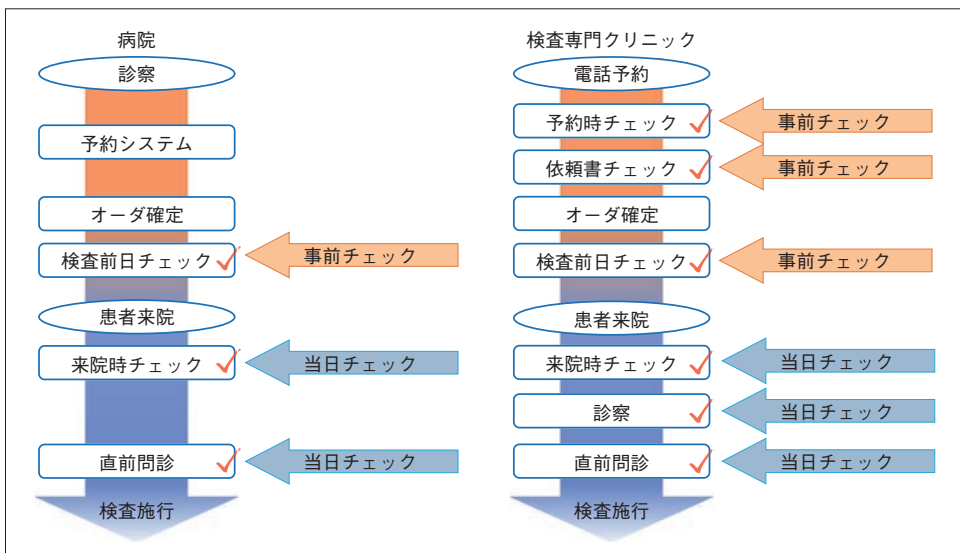


図1 病院と検査専門クリニックの安全確認作業の違い